

# 一日も早い支援を目指して

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、多くの方の生活を一変させました。市では一日も早く国からの給付金をお届けするとともに、市独自の支援策についても検討し、実行してきました。新しい生活様式に移行しつつある今、市民の方、市内事業者に向けて行った支援策についてお知らせします。

## 一丸となって困難に立ち向かう

新型コロナウイルス感染症対策  
業務推進チーム 個人給付班



申請書の郵送準備をするようす

### 一日でも早く…

今回の特別定額給付金の給付にあたって、私たちが最も重きを置いたのは「市民の皆さんに、一日でも早く給付金をお届けすること」でした。

しかし、委託を予定していた業者のスケジュールでは、早くても申請書の送付が5月下旬になってしまい、目標とした5月の大型連休明けの申請書の送付から、大きく遅れを取るようになりました。そこで、私たちは全てを業者に頼らず、職員も汗をかいてこの危機を乗り越える判断をしました。とはいえ、初めての作業となるため、一つ一つが手探りの状態でした。

まず、壁として立ちちはだかったのが、どうすれば申請書を早く送付できるかということ。シ

ステムの導入まで2週間ほどかかることから、職員が申請書を送付するための暫定的なプログラムを作りました。

次に、申請書や封筒の印刷です。こちら職員が手作りで行いました。そのため、申請書が見づらいというご意見もいただきましたが、スピードを優先したため、ご容赦いただければと思います。

### 150人を動員し

申請書の封入作業は大型連休中の5月4・5日に職員、述べ約150人で実施。結果的に、5月8日には郵便局に持ち込むことができ、目標としていた連休明けの送付に至りました。

### 感謝の気持ちを励みに

返送していただいた申請書の中には「狭山市に住んで良かった」「休日出勤で作業してくれてありがとう」などといった激励



申請書の処理状況はホームページで毎日更新  
※画像は6月2日時点のもの

のお手紙や、市役所で直接感謝のお言葉をいただきました。皆さんから寄せられた感謝の気持ち、職員の何よりの励みになりました。

緊急事態宣言の解除という一つの区切りを迎えましたが、まだ完全な終息には至っていません。引き続き市として適切な対応ができるよう、気を緩めずに取り組んでいきたいと思っております。

## 「さやまの事業者と「心をつなぐ」

### 事業者の支援を

世間が徐々に自粛ムードになると同時に、狭山の活力の源となっている事業者は、売り上げ減少などにより、苦しい資金繰りを強いられる状況となりました。その中で、「一つでも多くの事業者を救いたい」との気持ちから「3つの支援策を打ち出しました。」

### 融資制度の拡充

制度融資をより利用しやすい制度とするため行った、市内金融機関とのヒアリングで、これから事業者が厳しい状況となっていくことが予想されると伺い、3月5日、「狭山市緊急特別資金」の制度の緩和を行いました。その後、さらに経済状況が悪化する中、再度金融機関にも意見をいただき、4月14日、融資の限度額を3千万円に引き上げるなどの追加対策を改めて行いました。これは自治体独自の融資額としては県内トップクラス。日頃から多くの事業者が市の制度融資を積極的に利用しているという背景があるからこそ、今



テークアウトの注文を受ける市内飲食店

後も金融機関と連携を取り合い、状況に応じて柔軟に対応してまいります。

### 『支え合い、さやま』プロジェクト

また、狭山市ビジネスサポートセンター「Saya-Biz」には事業者から多くの相談が寄せられており、4月1日には、Saya-Bizと市、商工会議所が連携し、「さやまのお店全力応援サイト」を立ち上げました。このサイトに情報を掲載したお店では、テークアウトを推進したり、お店の仕様を変えてドライブスルーを始めたりと、そこには厳しい中でも積極的に売りに

げの向上を目指す姿が…。

### 事業者応援金

そこで、国の持続化給付金の条件に満たない、小規模事業者を支援できないものかと考えたことが、市独自の給付金事業「コロナに負けない！さやまの事業者応援金」を進めるきっかけとなりました。この応援金は、売り上げの減少割合が20%以上という要件に該当する事業者に一律支給するもので、10万円という額ではありませんが、少しでも助けになればという思いで打ち出

新型コロナウイルス感染症対策  
業務推進チーム 事業者支援班



リモートで相談を受ける Saya-Biz 小林センター長



店舗へ出向き事業者応援金の案内をする職員

しました。

応援金事業で大切なのは、いかに多くの方に周知できるかです。商工会議所と協力し、多くのお店に伝わるよう、職員が直接店舗へ出向きました。出向いた店舗は約600軒。郵送を含めると約5千の事業者へ案内することができました。訪問の際には、感謝の言葉や近況報告をいただき、生の声を聞くことで地域の方々との結束力が強まっていくことを実感しました。

### 心をつなぐ

緊急事態宣言が発令されてから約2か月、これまで経験したことのない事態に直面しましたが、このような状況下でも事業

を継続してほしい、そのために市ができることは何かを考えてきました。

常に意識していたのは皆さんと「心をつなぐ」ことです。売り上げが戻るまで、まだ時間はかかりそうですが、今後心をつなぐに、一緒に乗り越えていきますように。

コロナに負けない！  
さやまの事業者応援金の詳細はこちら

